（本號八面）　（郵便物認可）　明治二十六年七月廿八日　（定價金二錢五厘）

時事新報

時事新報は全國中紙面の最も廣き新聞紙なり

第三千七百十九號
明治廿六年七月廿八日　金曜日
舊暦癸巳六月十六日　（丙寅）

（西暦一千八百九十三年）

時事新報定價

時事新報は毎號八面乃至十二面にして詳細なる商況物價の報告あり其代價郵送料は左の如し

一號　貳錢五厘〇一ヶ月　前金五拾錢〇三ヶ月　前金壹圓四拾五錢〇六ヶ月　前金貳圓八拾五錢〇一ヶ年　前金五圓六拾錢〇月曜日休刊（此他大祭祝日年始年末等一切休刊セズ）

時事新報郵送料

一　日本國内並に朝鮮國京城、仁川、釜山、元山津　一ヶ月　金拾三錢

二　南亞米利加、中央亞米利加、布哇諸嶋、米國若くは加奈陀を經て郵送する歐洲各國　一ヶ月　金六拾錢

三　北米合衆國、英領加奈陀　一ヶ月　金三拾錢

四　香港を經て郵送する亞細亞諸港、太平洋諸嶋、濠洲　一ヶ月　金六拾五錢

五　露領浦潮斯德、清國諸港　一ヶ月　金三拾五錢

時事新報廣告料（別表）

一行五號活字廿四字詰	一回限	一回以上
一行ニ付	六月	七日以上
一行ニ付	十三錢	十一錢
	十一錢	十錢五厘

本社へ寄稿に付

東京府下を始め各府縣に通信社なるものありて是より各新聞社に報道を發送し各新聞社は之を受けて紙面を填塞するより各社同一の記事を掲ぐるみと寡からず獨り時事新報社は社員並に通信員の多きを以て斯類の社に通信を依頼せずと雖も世間往々此事を知らずして通信社にさへ報道すれば本社にも其報道は達する事と信ずる方多きが如し爲めに行違ひを生じたる場合も寡からざれば本社に記事論說を寄稿せんとする方は直接に本社に向け發送あらんことを請ふ

時事新報社ニ達シタル投書ノ原稿ハ凡テ寄稿者ニ返ヘサズ又本社ニ保存セズ

時事新報

米國學生の美風

傚ふべし

今度米國シカゴ府に開かれたる世界大博覽會は如何にも其名の如く大博覽會にして場内の廣き出品の多き一通り觀廻るもなか〳〵容易の事にあらず加ふるに洋の内外より寄來る見物人の雜沓其だしきが爲め老幼婦女子の輩には歩行も難澁なるに乞夙に活潑機敏の聞えある同國の大學生は此際夏期休業を利用して是等不自由なる見物人を輪に乘せて之を押し行きながら說明案内の勞を取ると云ふ其業恰も我國の車夫輿丁に類したれば世間には之を以て學生の體面を汚すものなりとして非難する人もあるべけれども我輩の所見に據れば決して然らざるのみか却て是れ近來稀なる美事にして斯くありてみそ始めて文明社會の學生たる名に恥ぢずと謂ふべけれ特に此事實に就ては三箇の注意すべき要點あり第一學生の金錢を重んずる事第二其活潑なる事第三社會の機關に關する事にして抑も書生の修學中は父兄の責務を仰ぎ他に依頼して衣食するの常なれども苟も金錢の貴きを知りて自營自活の道を見出したる上は其道の如何を問ふことなく如何なる職業にても之を執るみな獨立男子の本意なれ車を輓き駕籠を昇ぐはれろか泥濘を淺へ掃除屋を業とするも敢て辭す可きに非ず米國大學生の此度の擧の如き夏期休業の間に儲けたる金を以て一年の學費に供して他の補助を免かれんとするの企なれは之を我國の書生輩が他人に低頭平身して衰を乞ひ錢を貰ふて恥ざる者に比すれば其氣力の相違天淵も啻ならず畢竟米國人が獨立を重んずると共に金錢の貴きを知るが故なりと認めざるを得ず斯くの如く獨立の爲めに錢の貴き所以を知るもイザ實行と云ふ場合に至り左顧右顧、躊躇逡巡して兎角決斷の難きものなれば、思切て直に之に着手する其身心の活潑を欠くときは折角の覺悟も有て甲斐なし殊に内外人の耆く群集する場所柄に於て車夫輿丁の業を取るなぞゝは我日本の書生輩が夢にだも爲し得ざる所なれども流石は文明國の學生だけに氣輕手輕に思立て早速之に着手すると云ふ其活潑、其無邪氣、我輩の實觀して措く能はざる所にして天眞爛熳たるものと云ふ可し既に金錢の貴き所以を知り又みれを求るの手段を師行するの勇氣あるも社會全般の習慣に禮儀を重んじて始めて實際の運動を自由ならしむるに足る可し是亦米國固有の美風と稱す可きものなり我國には駕籠に乘る人、昇ぐ人と云ふ諺さへある程にて勞働者と使用者との間には尊卑の別甚だしきものあるが如くなれども本來を尋ねば人間の職業に貴賤尊卑の分る可き筈なく駕籠に乘る人は畢竟足の弱きものなれば其足の弱きものが强きものゝ助けを仰ぎて之に賃錢を拂ふは恰も眼の弱きものが眼鏡を買うて視力を助くるとの等しく眼鏡を掛けたりとて別に其人の位高くなる道理もなければ駕籠に乘りたりとて其人の身分尊くなる筈もある可らず尙ほ之を喩ふれば病人が醫師を迎へて治療を乞ふが如し人の苦痛を救ふ醫師を見て其救はるゝ病人より身分賤しと思ふ者はなかる可し斯く詮じ來れば駕籠に乘る人昇ぐ人とは畢竟物の數を知らざる俗言にして駕籠に乘て輿丁を賤しみ車に乘て車夫を輕しみ病氣の治療を乞うて醫師を尊しむるが如き無禮無作法は文明の社會に許さゞる談にあらざれば此度開龍博覽會に於て學生が車を輓けばとて之に乘て學生を輕蔑するの顏色なく輓く者も乘る者も平氣にして周圍に之を怪しむ者もなきは正に是れ北米合衆國に行はるゝ自由平等の精神を寫し出したる活圖畫なる可し左れば青年の書生が第一に錢の貴き所以を知り第二に其錢を得るの方便を見出して氣輕に之に着手し第三に社會の氣風は禮儀を重んじて人の勞働を賤業視せず以上の三者相互に聯絡して國民獨立の根本も始めて堅固なる可し大學生徒車を輓くの一事小なるに似て決して小ならず我輩は日本の青年輩に向ても斯くありたしと眞望して止まざると共に社會一般に於ても平等の禮儀に注意して他の運動を自由ならしめんと呉々も勸告する所なり

官報

○勅令

朕鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給規則中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治二十六年七月二十六日

遞信大臣伯爵黑田清隆
大藏大臣　渡邊國武

勅令第七十六號

鐵道會議議長議員及臨時議員旅費支給規則中「第二條」ヲ「第五條」ニ「第三條」ヲ「第六條」ニ「第四條」ヲ「第七條」ニ改メ更ニ左ノ三條ヲ追加ス

第二條　召集ニ應シ上京シ及閉會ニ依リ歸鄉スル者ノ旅費ハ其何嶋ニ在ルヲ問ハス住居地ヨリ電路ノ基礎ヲ計算シ之ヲ支給ス但東京ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居ヲ有スル者ハ旅費ヲ支給セス

第三條　前條ノ場合ニ於テ日當ヲ支給スルカ爲メ其日數ヲ計算スルニハ内國旅費規則第十六條ニ準拠スヘシ

第四條　上京旅費ハ著京ノ後歸鄉旅費ハ鐵道會議閉會ノ際之ヲ支給ス

○内務省告示第三十七號

明治二十五年十二月三十一日市町村現住人口別冊ノ通

明治二十六年七月二十七日

内務大臣伯爵井上馨

○第二豫備金支出

明治二十六年度第二豫備金支出

第九回

一金六拾六圓貳拾八錢　獸疫費

奈良縣下ニ於テ牛疫流行ニ付之カ豫防費ヲ要シ本行ノ金頼第二豫備金ヨリ支出ノ儀農商務大臣ヨリ請求有之本大臣同意ヲ表シ之ヲ上奏シ本月二十一日勅裁ヲ得タリ

明治二十六年七月二十七日　大藏大臣渡邊國武

第十回

一金壹萬貳千九百壹圓八拾四錢　下谷、松坂兩區裁判所新營費

下谷、松坂兩區裁判所火災ニ罹リタルヲ以テ之カ新營費ヲ要シ本行ノ金頼第二豫備金ヨリ支出ノ儀司法大臣ヨリ請求有之本大臣同意ヲ表シ之ヲ上奏シ本月二十一日勅裁ヲ得タリ

明治二十六年七月二十七日　大藏大臣渡邊國武

第十一回

一金參千四百七拾七圓九拾貳錢九厘　平磯航路標識復舊工事費

平磯航路標識暴風ノ爲メ破損ニ付之カ復舊工事費ヲ要シ本行ノ金頼第二豫備金ヨリ支出ノ儀遞信大臣ヨリ請求有之本大臣同意ヲ表シ之ヲ上奏シ本月二十一日勅裁ヲ得タリ

明治二十六年七月二十七日　大藏大臣渡邊國武

雜報

○獨逸國通信（六月六日發）（前號の續）

雲莊生

國民自由黨

は今より二十六年前に中央黨の左翼及進歩黨の一部の融合より成りし政黨にして外交に關するみとは政府の處置を至當と認め力めて獨逸聯邦の統一を謀り隈だ内政の事に就て專ら自由主義を執り民權を增進せんとの宣言をなして打て出でしかば黨勢恰も旭日の昇るが如く忽ちにして全國を風靡し獨逸の國會には百五十名普漏西の下院には百七十名の代議士を有せしが聯邦統一の業成りし後其看板の自由主義は漸々軟化し政府の議案には自家の綱領に背くもの迄も賛成を表するに立至りしかば中途より黨中の名士バムセルゲル、フチルケンベック等二十餘名は斷然分離して一團に進歩黨に合せり後ち國民自由黨は遂にビスマルクの爪牙となり純然たる政府黨に化し保守黨を助け專ら自由貿易の利益を主張し國會の議案には盡く反對し第二に離散し從て代議士の數も四十一名を有せしのみ相率ゐてカプリウ伯に從ひ其勢を呑むるに至りしが其後ベンニングセンに長じ人を統ふるの才に缺ること甚しかりしヒテル社會黨のアウグスト國會の三傑と稱せらるゝ者、大學の教授官吏等にて組織せるマルク職を辭せし後者り此度の增兵案にも賛成せり

獨逸自由黨

千八百四十八年の革命に當りエルベック、ジュルツケンベックの徒後ちに下院に於て引續き獨逸マルクの正反對に立ち成さんみとを勉めたり調意法紛擾の時代に於て横の處置を行ひし際に權の伸張を圖りしは實に年前に國民派の脫走黨員は多く中等民族に貴族地主顧官等も此黨及右黨に向ひしが社會受けし有樣にて左に向てはは保守的の分子をも黨中には學者、辯能く張り最終の國會に度の軍備擴張案提出に立ち論辯敢て最も勉めテルの如きは二十四年遁逃し是迄陸軍の當局ばあり今年の增兵案攻とする處にして其演說しと云ふ、リヒテルの增兵案に關する一欄日國會に於ける決議に方に賛成せしかば即席名を除名するの發議民派より分離せしもの區民の存意を慮りて此際其議を不可とし名は一致してリヒテル一の代議士を失ふも獨の勇敢果斷の處盡は派は塾日より更に自由合と假りに命名せり新ル、バルト等屈指の名ハ、ウイルホウ等の分裂後軟派は更に一層頗る同意を表すと言は振聞の溝塹は愈々深さ

時事新報には每號詳細なる商況物價の報告あり」